

平成25（2013）年度

第2回 吹田市立博物館協議会

議事録（要旨）

日時 平成25（2013）年10月28日（月） 午前10時～12時

場所 吹田市立博物館 2階 講座室

出席 一瀬 朝田 由谷 村田 辻本 田中 奥野 来間 瀧川委員

欠席 広瀬 上谷 西村 内田委員

傍聴者 なし

【挨拶】 中牧館長

案件（1）事業報告（平成25年度前半～）

○藤井副館長より3・4ページ年度別・月別観覧者集計表について説明（資料参照）

○事務局より5～14ページ25年度前半の事業について報告（資料参照）

○質疑応答

（議長）事実確認を中心に協議いたします。特展の個別の内容で観覧者増の要因の分析がありましたら。

（副館長）「行基」展は、出展資料の魅力により広範囲な地域からの観覧者がありました。「気比家」は、旧民家と残されている「気比家」作品や浜屋敷との連携があり、意義があったと思います。「夏季展」は、毎年同じテーマで、中期的展望がいとご指摘をいただいております。「もう少し展示の方に力を注ぐべき。」ということが毎年反省に出ています。平成25年度は、アドバイザーを入れ、展示に取組んだことが観覧者増に繋がったと思います。「さわる」展も作品の魅力を出せるよう取組んでいます。

（委員）5ページ「大坂画壇」、6ページ「あそび」、次のページも関連していますが、成果がわからない。アンケートを取っているかどうか教えてください。

（副館長）アンケートは、展覧会毎に取っております。回収率は高くはありませんが集計をしています。分析までは至っていないという一部ご指摘もありますが、出来る範囲での改善は行っています。

（委員）展覧会の理解を深めてもらえたかどうか。「理解してもらった」の項目を質問事項に入れたらどうでしょう。イベントの前に学芸員がイベントの内容について、具体的にお話をする事によって、内容の理解が深まるのではないのでしょうか。

（事務局）イベントによっては、講師や学芸員が今日のイベントの趣旨を説明しています。

（議長）イベントをしていると利用者との会話を通じてどう感じられているかも一つのアンケートかと思えます。展示目標でイベントと展示を結びつけるねらいがあると話されていましたが、うまいこといった繋がりがあれば、教えて欲しいと思います。

（事務局）夏季展示の場合、展示内容よりイベントの方が広報の関係により先に決まります。イベントの方が市民のみなさんは得意で、アイデアを持っておられるが、展示とあまり結びついてい

ないとアドバイザーから指摘され、展示とイベントとの結び付けを具体的な仕掛けで工夫しました。それによって例年に比べて、展示室に入る利用者は増えています。

(事務局) 2年ほど前から監視員による利用者の「生の声」を聴取するなどして、日誌のような記録を取っています。

(委員) 学芸員は、一日に1回または二日に1回は展示場に見に来るということはあるですか。

(事務局) あります。

案件(2) 事業計画(平成25年度後期～26年度前期事業)

○事務局より 平成25年度後期～26年度前期の事業計画(案)の説明を行う(資料参照)

○質疑応答

(議長) 委員の方でご意見ありませんでしょうか。

(委員) 学芸員実習ですが、「さわって楽しむはくぶつかん IN すいた」の事業の中で行われてきて、今回からは切り離すんだというお話ですが、実習生たちに展示の説明をしてもらうということなんでしょうか。

(副館長) 実習生による展示解説は実施します。変わった理由は、

①展示の広報が、展示実習が始まってからでは間に合わない。そこで、博物館の方で早めに企画展の内容を決定していくと、展示を企画し、展示を作っていく思考という部分が学べない。

②実習展は、今まで通りイベントと解説などを含めながらやっていく方針には変わりはありません。展示手法として、今まで通り「ものに触れて」ということを実習生と一緒に企画できれば問題はないと考えています。

(委員) 事業評価報告書に関わりますが、P22の中程に「さわる」展の理念のようなものがありますが、それに絡んで「さわる」展をもう少ししっかりさせようという意図なんでしょうか。

(副館長) 22ページに書かれていることに関連して分けたものではありません。分けた理由は先ほど申した通りです。博物館全体としては、館長を筆頭に展示にあたって「さわって」五感により、情報を仕入れていく方針は、常設展示などあらゆるところに普及させる考えを一定持っておりますので、22ページとは関連すると思いますが、22ページは、24年度「さわる」展に頂いた評価できる点、改善すべき点のご意見をそのまま載せております。

(委員) 学芸員実習のことで、館の予算として20万円出ています。学生(大学)から受益者負担として、実習費は徴収できないのですか。

(副館長) 実習費は受け取っていません。学芸員に対する謝礼的な意味合いが強くて、仕事の中でのことですから受け取れません。吹田市に入るような仕組みは可能かなとも思いますが。

(課長) 博物館の資料を実習生がどの様に組み立てていこうか、見せていこうかという趣旨で展開をしておりますので、今後実習生がやる展示で、費用が発生するということがありましたら、考える必要があると思います。教育的な効果を考えて取組んでいます。

(委員) 予算というのは。

(課長) 展示をする時に解説書を書く、キャプションにかかる紙代などです。他からものを借りてくるとか、そのための謝礼を出すとかそういう経費ではありません。

(副館長) 費用予算になっているのは、展示の解説パネル、キャプションなど博物館のプリンターを使

っての作業による消耗品費などで、日常業務の中で、買ったものを利用しています。そのため
厳密に実習の経費が幾らかかったかというのは、難しいところです。

(委員) 通常の実習で全部できるというのであれば。

(副館長) 日常の予算でやっています。

(議長) 実習期間の中で展示まで到達するかどうか、そちらの実現性の方が不安かなと思いますが。

(副館長) 実習生が必ずしも博物館が扱う資料が専門である学生とは限りません。約一週間の期間での
展示ですので、博物館とは何か、博物館の展示とは何か、どう考えながら、どうやって作り上
げていくのかを学んでもらうように考えて、将来博物館全体の底上げに繋がっていくような人
材を育成していく視点で、実習を組み立てています。最近、会話する博物館として、フロアス
タッフ業務を実習生にもしてもらっています。一定の効果は出ていると思います。

(委員) 一般企業の立場から言うと、勉強するというよりも、一緒に作業をしてもらいます。私は窯跡
を復活させたい。紫金山公園に窯を作る「夢のある話」に取り組んでみてはどうか。来館者数
に一喜一憂してはダメだと思います。

(議長) 学芸員実習は、未来への投資だろうと思います。

(議長) 学生と紫金山公園に行った時、公園と博物館とをどう繋ぐかという意見を求めた時、学生から
窯で瓦を焼く意見が出てきました。博物館の学芸員が瓦の版木をもって各小中学校を回って出
来上がったら博物館の屋根に葺きに来てもらうなど、連携は出来ますでしょうか。

(事務局) 常設展では瓦を葺いてみようという体験コーナーがあります。以前、粘土での瓦作りを体験
してもらいました。また瓦の版木を貸し出すこともできます。

(議長) 他ありませんでしょうか。

(委員) 実習展ですが、企画・展示まで短期間でできるのか疑問です。一週間程で企画して資料を選定
して準備してできるのか。視点はいいと思いますが、基本的には学芸員になる卵です。学芸員
が主導権を握っていないとちゃんとした展示になるのかなという気がします。

(副館長) 企画はかなり学芸員が関与しています。そこはしっかりとやっています。

(委員) 学芸員の企画でいいと思います。

(副館長) 実習ですので。

(委員) 企画は、学芸員だけでも、企画に対するいろんな討論に参加させている程度でいいのでは。

(議長) 原則で2週間。企画段階と実施段階に2つに分けた方が現実的な感じがします。アイデアを
考える期間、アイデアが決まって実施する期間みたいな2段階を考えられないでしょうか。

(副館長) 大学側の考えもありますし、2倍というのは他の企画もありますので難しいと思います。

(委員) 博物館の特別展企画ということで、学芸員が実習生を使って展示をする。ポスターを作るので
あれば、学芸員実習展示と明確にする。

(副館長) 来年度は、そのような形で実施しようと思っています。

(議長) 20ページに「謎の古墳を探る一木でつくられた墓室」北大阪ミュージアムネットワークと
の連携事業の中で、公開とありますがどんなものですか。

(事務局) 12月7日に北大阪ミュージアムネットワークシンポジウムということで実施します。茨
木市の文化財資料館と協議しながら進めています。京都府立大学の菱田先生にお話をしていた
だく内容になっております。

(議長) シンポジウム形式ですか。

(学芸員) そうです。3人のパネラーによる発表と討論です。

(議長) 最後に、3番目の案件に移りたいと思います。(1)(2)の案件で取りこぼしたのも含めて、(3)の案件で、意見交換したいと思います。

案件(3) 課題討論

○平成24年度博物館事業評価について

(副館長) 資料の22ページ以降でございます。この報告書は、皆様から頂いたご意見ですが、内容的に重複しているものは、整理させていただき、極力そのまま載せたものです。今年度中の1月か2月ぐらいにはおまとめ頂きたいと思います。今日この資料に基づいて議論をいただき、それを踏まえて修正して頂きますが、評価法、記載法について、特に今年は一瀬議長から23ページ以降のような点数表を付けるということで、進めておりますので、最終的にどうまとめるか、今日お決めいただければと思っています。28ページ以降の表は、自己評価点を人数分で割った評価平均点です。自己評価点と皆様からいただいた評価点とは、かなりの部分で一致しています。

(委員) 情報発信で、博物館事業のPRはされているとは思いますが、定期的なコミュニティバスとか博物館の足を確保することが必要です。民間を活用する取り組みを検討して欲しい。

(副館長) 博物館だけで考えていくのは難しいです。紫金山公園前バス停が出来ました。JR岸辺駅に博物館案内の看板を設置いたしました。

(委員) 交通機関を生かす方法を考える必要があると思っています。

(議長) サインも点検項目に入っているとわかりやすいと思います。

(委員) ビジターセンターについてはどうなっていますか。

(副館長) 平成22年度に建設の方向で予算要求のレベルまでいきましたが、今は、ペンディング＝保留となっています。

(議長) 案件の(2)で、夏季展で中期的展望も含めて、具体的なテーマがあった方がいいというご意見がありましたが、15ページの「吹田市の自然と環境」、16ページの「学芸員実習展」「さわって楽しむ」もねらいとテーマ、せめてサブタイトルを付けた方が、「むかしの暮らしと学校」も含めて、そのねらいに沿った形で「さわる」という展示手法が伴うという書きの方がわかりやすいと思います。

(副館長) 前回もご指摘がありました。毎年同じタイトル名では、内容がわからない。内容自体も同じでは難しい。改善する点だと思っています。市民参画でやっていますので、参画されている市民の方のご意見をいただく必要がありますので、手法も含めまして検討します。

(議長) その他でありますでしょうか。

(委員) 15ページの「むかしの暮らしと学校」展の中に関連イベントとして、「勾玉づくり」がなぜ入っているのか。

(事務局) 体験コーナーの一つにむかしの暮らしぶりを体験しようというのがあります。学校見学時には、常設展示とからめて古いことも体験してもらおうということで、弥生時代の食生活と貫頭衣を着るというコーナーを設けています。その中にアクセサリーとして勾玉をつけるコ

ーナーを作っています。自分たちも「勾玉」を作ってみたいという声があります。勾玉の由来、材質などの歴史的なことも説明しています。

(委員) 名称、テーマを工夫したらどうか。

(議長) 特別企画で小学生のための「むかしのくらし」などタイトルを工夫したらどうか。

(事務局) タイトルの付け方、工夫を考えます。

(議長) 「衣食住」とか「遊び」とかを前面的にテーマとして出した方が分かりやすい。まとめ方の問題だと思います。

(委員) 事業報告の書式ですが、大きなかたまりごとに番号を打つとか、枝分かれした所に番号なり、ABCを打つなど報告書の作り方を工夫し分かりやすく書類を作って頂きたい。

(副館長) ご指摘のように変えさせていただきます。

(議長) 前半の意見が書かれている分を集約した分が評価報告書ということになると思います。それと必ずしも評価点の一覧は連動してこない。チェックシートみたいな役割になるのですかね。

(議長) 今年度に関しましては、展示のところに総合評価4.1点とあります。総合評価というのは、評価点から導き出されていると思います。そのところで何を認証して、総合評価何点かというところで事業評価点のどれがどれというのをカッコ書きで指し示せば、どこを認証して総合評価何点になっているのか。互換性というか繋がりを示すということで、どうでしょうか。

(副館長) 28ページ以降の資料も報告書の中に加えていくということでもよろしいでしょうか。

(議長) 参考資料として、付けていいと思います。来年度は、どちらかを項目整理する方向で、分かりやすく一番整合のいい形で、工夫ということでいかせていただければと思います。

(副館長) 22ページから27ページのところにつきましては、どうさせていただきますでしょうか。

(議長) そちら辺は、私の方でまとめさせていただいてよろしいでしょうか。もう少しコンパクトになるようにと重複表現がある部分は削除させていただいて。各委員の方には、まとめた物がまわっていく。それで、最終ご意見をいただくということですね。

(館長) 終わりのあいさつ。